

目黒寄生虫館月報

昭和34年10月10日発行・毎月1回10日発行

第8号

昭和34年10月

内 容

所感の一端 (吉田貞雄)	1
東京農工大から資料提供をうく	1
大田秀浄博士来館	1
原稿引続き2篇完成	1
NHK教育テレビに資料提供	1
標本, 文献の贈答	1
ON SOME ACANTHOCEPHALA (2)	2
北大に山下先生を訪れて	2
目黒寄生虫館建設記録 (6)	3
特別展示「ボチは狙われている」	3

所感の一端

吉田 貞雄

欧米先進国の博物館や美術館などは夙に専門知識階級の研究又は参考資料の淵源となるのみならず一般民衆の文化に貢献する処が多いため繁栄を極めていた。我国でも近時その傾向が濃厚となり、これにより大衆の啓蒙せらるること益々旺盛となり、博物館や美術館が重要視せらるるようになった。かかる機運に際し寄生虫館の如き従来思いも設けなかったものが創設せられたことは非常な卓見によるものと確信し誠に邦家の為め慶祝に堪えない処である。

当館の設立に当り館主の意図せらるる処は固より遠大高邁であると思うが私は本館が専門識者の殿堂となるのみならず否寧ろそれ以上に民衆の知識（寄生虫に関する）啓蒙の道場としてその任務を果されんことを熱望して止まぬものである。私はこの道に入って以来数十年間薄学菲才を顧みず、寄生虫の知識普及につき、口に筆に力を尽して来たが、不徳の致す処毫もその効果を見ず、ひそかに不肖その任にあらずと諦め、又機未だ熟せずと嘆ずる外なかつた。

終戦後米軍が駐留するようになり、米軍の勧告により、結核病、性病、及び寄生虫病の治療、撲滅、及び予防に対する為政者の考えも従前と異り一層強化の一途をたどり、我が寄生虫界においても長足の進展を見、殊に最近数年においては学界の識者と政府当局の協力に加え民間有力者の援助を得て寄生虫病予防対策につき目覚ましい活躍の始まったことは誠に喜ばしい極みである。由来日本人の事業は兎角上司の力によることが多い。寄生虫病予防対策の如きもその一つの成功であるが、茲に注意すべきは、徒らに上司の力にのみ依存すべきでない、否民衆のこれに対する反応即ち大衆からの盛り上げる力がなければ如何なる対策も効を奏し難い。是れ即ち民衆に寄生虫の知識の必要な所以で、これなくては民衆の盛り上げる力は起らぬと思う。是を思い彼を考るとき寄生虫館の如き最も重要な存在である。政府も地方自治体も各所にこの寄生虫館の如きものの設置こそ有終の効果を納むるものでないかと愚考する。寄生虫館の任や重大にして其の前途や洋々たるものがある。可祝（阪大名誉教授・理博・医博）

東京農工大から資料提供をうく

9,10月特別展示「ボテは狙われている」を準備するについて東京農工大農学部獣医学科久米博士及び大石助手から色々教えをうけ又種々資料の提供をうけた。

大田秀浄博士来館

9月4日山梨県立医学研究所大田秀浄博士が来館され同県における日本住血吸虫症の近状を伺った。

原稿引続き2篇完成

弘前大楨教授の原稿「蛔虫及蛔虫症」につづいて久留米大岡部教授の「テニア属条虫及び囊虫症」が完成した。

NHK 教育テレビに資料提供

9月28日林業試験場技師宇田川氏が放送「動物の生態」に文献図譜標本等を提供した。

標本、文献の贈答

予研寄生虫部から…*Eimeria tenella*
野毛山動物園小原氏から…アシカの線虫外8点
小田原利光氏から…アカムツの等脚類
山田清三氏から…藻洲各地にて採取した蠅8点
小倉暁雄氏から…玉川の菱、イラガの幼虫、やまかがしの線虫、*Gordius*?
資源科学研究所浅沼靖氏から…別刷 *Haemaphysalis flava* の季節的消長外5篇
野毛山動物園小原氏から…別刷動物園に発生した猿の結核について外3篇
台北衛生院長王洛博士から…公共衛生提要
予研寄生虫部へ…もんしろ毒蛾計3点呈供

生物学同好会

9月29日午後7時から下目黒小学校で福井玉夫博士が動物分類学「軟体動物」の講義をされた。

9月の短信

- 1日……………予研から借用の毒蛾大パネル1標本2函返却の為館長朝比奈博士訪問
- 3日……………公衆衛生院部長久保博士を訪問し統計について教えをうけた（木原）

ON SOME ACANTHOCEPHALA FOUND IN MARINE FISHES (2)

MIDORI KIHARA

Rhadinorhynchus katsuwonis HARADA, 1928 (Fig. 1-2)

Male. A single male specimen was collected from the small intestine of *Katsuwonus vagans* (LESSON). The shape of the body is cylindrical, measured 9.3 mm in length 0.6 mm in maximum width. The proboscis is fairly long, club-shaped 1.9 mm in length. The proboscis is armed with 20 rows of 34 hooks each, gradually becoming smaller posteriorly. The trunk is armed with 28 spines on one side. The proboscis receptacle is fingerlike in shape and 3.6 mm in length. Lemnisci are club-shaped, some what shorter than the proboscis receptacle in length. Ligaments are fairly long and reach the anterior testis. Testes oval, 0.8-1.0×0.4-0.5 mm, lie directly tandem but the posterior testis is slightly overlapping. Cement glands are four in number and cylindrical, some of them slightly overlap ping the posterior testis; glands are about 2.4 mm long exclusive of duct. Everted bursa is 0.7 mm long and 0.5 mm wide. Lacunar system is not recognizable in my specimen. The body of the living worm is salmon in colour, but when dead becomes white.

Habitat: Intestine of *Katsuwonus vagans* (LESSON)

Locality: Setagaya fish market, Tokyo.

Date: May, 24, 1957.

Filisoma japonicum FUKUI et MORISITA, 1936 (Fig. 3-4)

Female. Unfortunately gravid male could not be obtained, one female was found in the small intestine of *Inimicus japonicus* CUVIER et VALENCIENNES, therefore the following description is based on female only. Trunk 14.3 mm in length, 1.0 mm in maximum breadth at about one third of its length from its anterior end, and the tip part of the trunk is distinctly constrict. The proboscis is cylindrical, 0.8 mm in length and 0.2 mm in width, it was armed with 11 longitudinal rows of 23 hooks each, gradually becoming smaller posteriorly. The lemnisci are fingerlike in shape and a little longer than the proboscis receptacle. There is a long-stalked uterine bell widely open in front. Ovarian masses is ellipsoidal or oval.

Habitat: Intestine of *Inimicus japonicus* CUVIER et VALENCIENNES.

Locality: Kawasaki fish market, Kanagawa Pref.

Date: August, 20, 1957.

北大に山下先生を訪れて

木原 緑

札幌の静かな昼下り、すきとおるような風は北国に早くも訪れた深い秋を思わせる。

北大の門に入り、手入れされた芝生に憩う学生と木立の間をぬってゆく。正面の農学部が続く道の左側にはクラーク先生の像があり、伝統を誇る北大の落ち着いた雰囲気をかもし出していた。

農学部の三階に最近引越しをされたという獣医学部に山下次郎先生をお訪ねすると、先生は、「昨日から今朝の三時まで、ぶっ通しの会議ですよ」と申されながら、それでもお元気そうな笑顔で迎えて下さった。

新しい建物の内部設計とそれに伴う学部の移転、就職その他の委員、それに運動部の委員までされる由、又来年北大で開かれる寄生虫学会の準備、御自身の研究と多忙を極めていられる。「肩書きだけでも十八位あるでしょう。なかなか断り切れなくて」とほほえまれる先生の人気の程もうかがえるが、御自分の時間が僅かしか持てないのはお気の毒でもある。先生のあとについて学部内をみせていただく。ここもまだ仮住いのことであるが、立派に設備も整っている。山下教授室と書かれたドアに隣接した図書室には、各国の寄生虫に関する図書が並び、別刷は全部番号が打たれ、索引カードでいつでも引き出せるようになっている。標本室にはエキノコックスを感染させた羊や鼠の臓器をはじめ、各種の寄生虫標本が所せましと並んでいる。

実験室は大きな木立の葉蔭を映した窓側に机が並び学生達は夫々の研究に余念がなかった。きちんと整理されたこの部屋は、実験台一つにしても材質その他に

行き届いた神経がうかがわれる。

写真室ではカラー写真の現象も出来るとのことであった。次は換気装置のついた清潔な実験用鼠の飼育室エキノコックスを感染させたり治療効果を試験する各種の鼠が、アルミの飼育箱にたくさん分けて飼われている。

種類によっては体力にものをいわせ、あの尖った鼻で金網の蓋をあげるのもいるらしく、上に石がのせてあったりした。実験用の鼠は伝研から空輸されるのでその費用や厚い紙袋に入った固型飼料など、文字通りかなりの予算を鼠に食われてしまうと悲鳴をあげていられる。これらの完備された部屋の設計には大分頭を悩まされたとのことであったが、それだけに明るく、機能的に出来ている。

獣医学部も半分はまだ古い校舎に残っているため、すべてを一つにまとめるべく、これらの新しい部屋の続きに建築を急いでいる。

屋上に出てみると、有名な北大のポプラ並木が望める。写真でおなじみのこの並木は、如何にも北海道らしく、大きな木が果しなく続いているといった感じであったが、屋上からみたところそれほど長い並木ではなく、生意気にも絵葉書らしくない変わった風景写真をと張り切っていた私を大いに失望させた。

今日もこれから会議に出席されるという、ファイトの塊のような先生に、貴重な時間を裂いて下さった御礼を申し上げると共に、いついつまでもと御健康を祈ってお別れした。

札幌の街には夕闇が迫っていた。大通り公園まで来た私はそこに立ち並ぶ露店でトウモロコシを買い、芝生に座りこんで咲き乱れる鶏頭の鮮やかな色彩と、一日の仕事を終え家路に急ぐ人の群の交錯する中で、北海道の味を満喫したのであった。

目黒寄生虫館建設記録(6)

30.1.1. 元旦の休日のみが私にゆるされた1年間における唯一の自由の日である。私は例年この日を利用して各地の博物館を見学することにしている。今年は多年の宿願である猪苗代の野口記念館を訪れた。

1.2. 恩師平井金三郎博士が寄生虫館を訪ねられたお会いできなかつたことは残念であった。

1.8. 信州大学医学部阪部・丹羽両君が来館して1週間原虫の染色の実習をした。

1.12. 北研長野博士を訪問して館の経営について助言をえた。同日日本郵船村上船長に海外の資料蒐集についてお願いする。

1.17. 地震があったが標本は無事である。

1.20. 塩田広重博士の令息義重氏がバンコックから魚6種、がま等を持参寄贈された。雷魚の肝臓から顎口虫の幼虫をえた。

1.22. タイ国の魚を宮崎一郎博士にお送りし、同時に採集した寄生虫をみていただく。

1.28. タイ国領事館の Dr. Robin から魚の名前を教えて戴く。

3.4. 佐野仁氏が事務長に就任された。同氏は爾来3年間献身的に建設に協力された。

3.4. 宮崎一郎博士から大平吸虫他貴重な標本の寄贈をうけた。

3.11. 寄生虫予防協会から矢島重雄氏が来館され、爾来色々と同協会から援助をうけるに至った。

3.27. 菜草園にミブヨモギ、クラムヨモギ、アメリカアリタソウの播種をする。

3.31. 中共から帰国された大野善右衛門氏が来館され、ノミの標本の寄贈をうけた。多くの衛生昆虫学者への紹介をうけた。

4.1. 村上船長が Division of Schistosomiasis, Public Health Research Laboratories, Manila から分譲された *Oncomelania quadrasi* 他数点の標本の寄贈をうけた。

4.18. 町の昆虫研究家鈴木俊邦氏来館され衛生昆虫の蒐集について協力を約された。爾来同氏は我々の有力な協力者として献身的に建設にあたっているのは心強い限りである。

4.5.—22. の間にかねて依頼してあった駆虫薬に関する資料を呈供されたのは、住友化学、武田薬品、ナガ製薬、藤沢、三共の諸社であった。

5.24. 目黒7中の塩田先生が生徒の団体を引率して来館された。

6.1. 平井金三郎博士から激励の手紙を戴き、勇氣百倍した。

6.11. 東京薬大の学生一行が来館。

6.14. 村上船長は欧州航路より帰朝され Welcome

M. M. の新しいカタログ他数点の資料を呈供された。

7.5. かねて御協力を戴いている齋藤惣一先生が *Hamburg* の *Tropen in stitute* を訪問して Dr. W. Minning に色々依頼して下さった。同氏からは後に承諾の御手紙と資料の送附を受けた。

7.18. 伝研に佐々学博士を訪ねツツガムシの標本の寄贈をうけ、衛生昆虫の採集について御教示を受けた。

7.25. 東京薬大西島邦好氏からアメリカアリタソウの苗の寄贈をうけた。今日益々増殖している。

8.8. 北大山下次郎博士から *Echinococcus granulosus*, *Armilifer moniliformis* 他 20 点の標本の寄贈をうけた。

僕の友人である柴田組の社長柴田加寿美氏は、僕の事業に理解をもち、僕は何かと相談をしてきた。僕が計画のみで一向に資金の見当がつかぬところからあせっているのを見兼ねてか、資金のことは心配せずに一切まかせておけば僕が作ってあげると提案された。僕は夢かとはばかり驚喜して一切をゆだねた。陳列室のパネルの配置を Welcome M. M. の新しいのにあわせること(少し小さく)、実験室をつけること、この他のことは一切口出しをせぬことにした。とかく素人の意見は結果がよくないからだ。

そうときまったら状況一変で、何年先きのことか判らなかつた夢が一朝にして実現することになった。いささかあわてざるをえない。僕もできるだけ資金の調達にかけ回った。そしてあとは一切おまかせすることにした。僕は何というよい友をもったことだろう。

8.24. 標本室の構造の見学に柴田氏と共に山階鳥類研究所を訪ねた。そして高島春雄博士から大変有益なお話をきくと同時に上野動物園に紹介された。

8.25. 青ヶ島の小学校の先生との座談会に出席した。実に気の毒な状態であるのを知って、検便、駆虫を申出た。これは後に大変な困難な条件の中に遂行されてよろこばれた。

8.26. 上野動物園を訪ね福田課長、中川志郎先生にお目にかかった。そして動物の寄生虫の大量の寄贈をうけた。その後はますます御世話になっている。

9.25.—30. 台風の雨の中を家族中で標本器具の運搬をはじめた。いよいよ建築にかかるためだ。(亀谷)

特別展示・第4回

『ボチは狙われている』

—犬糸状虫症について—

内 容

- | | |
|-------|-------------|
| ○寄生状況 | ○発育史 |
| ○症状 | ○診断 |
| ○治療 | ○予防(10月末まで) |